

【学生によるESD支援活動】
子どもおん祭 支援報告書

社会科教育専修1回生 山本 健太

1. 日 時 2018年11月25日(日) 10:00~17:00
2. 場 所 奈良市ならまちセンター(奈良市東寺林町38)
3. 参加者 仲村幸奈、足立繁郁、山本健太、山田つきみ、杉山晴菜、阿部孝哉、西條秀哉(学部生)
4. 概要報告

2018年11月25日(日)、奈良市ならまちセンターにおいて子どもおん祭が開催され、当日準備と運営に本学学生がスタッフとして参加した。このイベントは、870余年絶えることなく受け継がれてきた奈良の伝統行事である「春日若宮おん祭」について子どもたちに知ってもらうことを目的に始まった地域のお祭りである。当日は、市内の小学生によるおん祭についての解説や和太鼓の演奏、ゲームコーナーや地域の方によるバザーなども行われ、賑やかな雰囲気につつまれた一日となった。

この活動を通じて学んだことを、以下の2点を通じて振り返る。1つ目に伝統を受け継いでいくことの大切さと難しさ2つ目に地域コミュニティでの繋がりの大切さだ。

1つ目に、伝統を受け継いでいくことの大切さだ。少子高齢化が進み、次世代に伝統を受け継いでいく子どもの数が減っていく現代において、伝統を受け継いでいくことは次第に難しくなっている。日本の中には、そのような状況によって消えてしまったお祭りなどの伝統文化が数多くある。しかしながら、長い年月を経て今日まで受け継がれてきた伝統行事には、数多くの先人たちの願いや思いなどが込められている。このことを考えれば、伝統が廃れ、消滅してしまうような現状は決して看過できるものではない。こうした日本の現状を見たとき、子どもおん祭のような次世代層向けのイベントは非常に素晴らしい試みだと考えた。伝統を後世へ繋いでいくためには、祭りを引き継ぐ後継者となる次世代層の育成が不可欠である。しかしながらその育成は大変難しい。伝統を受け継ぐことの大切さと同時に、難しさを感じるまたとない機会となった。

2つ目に、地域コミュニティでのつながりの大切さだ。人と人との繋がりが希薄化している現代において、このような地域の行事を通じて自分が住んでいる地域の中で濃密かつ温かいコミュニティに関われることは、非常に重要だと考える。地元のお祭りや行事に参加し、参加した子どもがその地域に愛着を持つことは、人口流出が顕著な地域においては将来的にも重要になる。将来的にこの地域に住まなくても、この祭りがあれば帰ってくる場所ができるともおっしゃっていた。そういったお話を聞いて、地域の中でコミュニティを築くことの大切さに気付かされた。

今回この活動に初めて参加して、慣れないことも多く戸惑いながらも、自分なりに積極的に取り組むことができ、多くの学びを得ることができた。来年以降も、この行事がこの先も何年先も続くよう、積極的にかかわっていききたい。



当日参加した運営スタッフ